

## 第4号議案

地域自主戦略交付金事業(街路事業)

まえばしながとろせん まえばしし  
(都)前橋長瀬線 前橋市

着工年度

平成14年度

評価理由

10年継続

## 1. 事業の目的

ボトルネックとなっている事業区間の前後に発生する慢性的な渋滞を解消するために、道路の拡幅(4車線化)を行う。

道路の拡幅にあわせて歩道を整備し、電線類を地中化することにより、地震等の災害に強く、すっきりとした町並みを実現する。



渋滞状況



電線・電柱の状況



当該箇所

## 2. 事業概要と進捗状況

## 事業概要

事業場所	まえばしおもてちょういっちょうめ 前橋市表町一丁目		
区分	今回	平成20年度 計画変更時	事業当初
全体事業費	2,410百万円	2,410百万円	2,688百万円
全体事業費増減の理由		用地買収費の減額	
事業期間	H14~H25	H14~H25	H14~H20
事業内容	道路延長 430m 幅員 27.0~29.5m	道路延長 430m 幅員 27.0~29.5m	道路延長 430m 幅員 27.0~29.5m

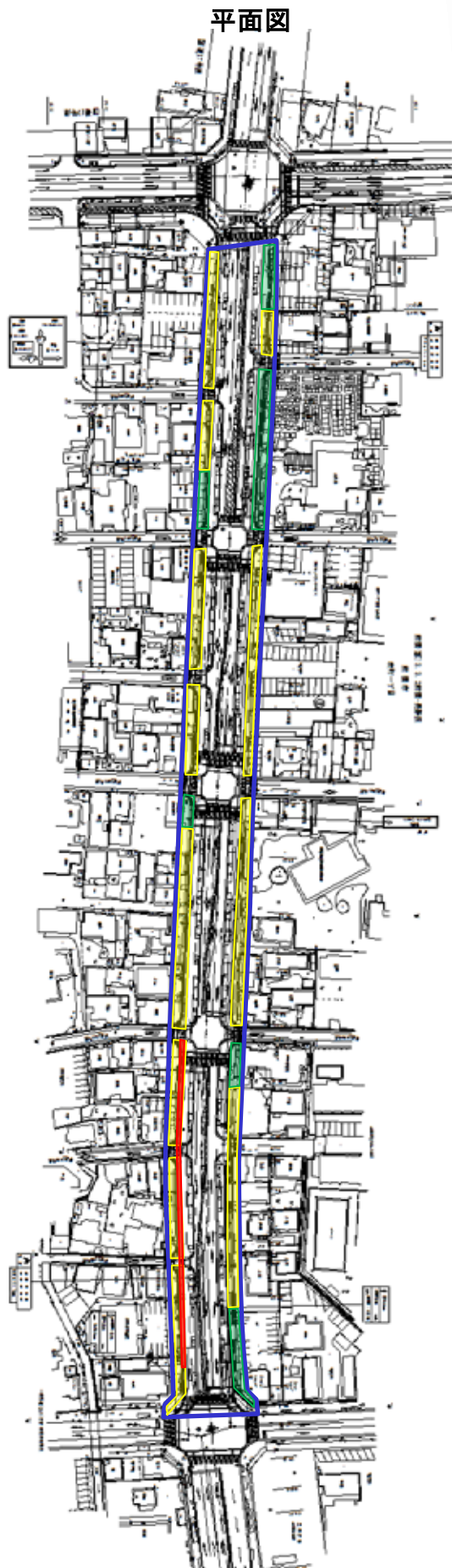
## 事業経緯

年度	主な経緯
H16	用地買収着手
H20	事業期間変更
H22	工事着工

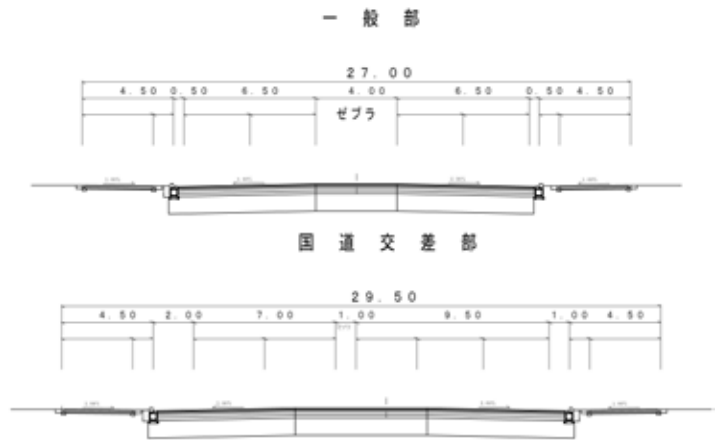
## 進捗状況





	全体計画	現在の進捗状況 (H22末進捗率)
事業費	2,410百万円	1,334百万円 (55.4%)
用地買収	2,800.0m <sup>2</sup>	2,054.1m <sup>2</sup> (73.4%)
計画延長	430m	0m (0.0%)

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



標準横断面図



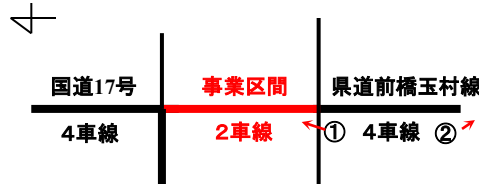
-  事業区間
-  平成22年度まで用地買収済箇所
-  平成22年度工事区間
-  用地未買収箇所

### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

本路線は交通量が多く、事業区間前後が4車線で整備されているため、当事業区間でボトルネックとなり、朝夕のラッシュ時には慢性的な渋滞が発生している。また、周辺には市立中央小学校、県立前橋女子高校等への通学路となっており、安全で安心して通行できる自転車歩行車道の整備が現在においても急務となっている。



①事業区間手前での渋滞



②1km先での渋滞

### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ・事業区間周辺は戦災復興の区画整理事業で整備されているため、ボトルネックとなっている本事業区間を街路事業により4車線で整備し、混雑を解消することが適当である。
- ・この路線は、緊急輸送道路(2次)に指定されており、事業区間前後と同様に電線類を地中化することにより、地震等の災害に強い連続性のある路線とすることができる。



整備済区間へ進む車線

事業区間の南側の整備済箇所(←写真)

事業区間がボトルネックになっているため、4車線側から進入してきた車線は渋滞しているが、整備済区間へ進む車線は渋滞していない。



事業区間の南側の整備済箇所(←写真)

電線類が地中化されているため、地震時における電柱倒壊の恐れがなく、すっきりとした街並みとなっている。

### 費用便益分析

		計画評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル		費用便益分析マニュアル			
基準年		平成14年		平成23年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	2,686,000	98.8%	2,382,000	98.7%		
	維持管理費	33,000	1.2%	32,000	1.3%		
費用合計 (C)		2,719,000		2,414,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便益	8,236,000	91.4%	2,887,000	106.0%		
	交通事故減少便益	238,000	2.6%	-481,000	-17.5%		整備されない場合の交通事故による社会的損失
	走行費用短縮便益	538,000	6.0%	315,000	11.5%		
便益合計 (B)		9,012,000		2,721,000			
費用対効果分析 (B/C)		3.31		1.12			

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画

不測の事態により長期化】

中心市街地の事業ということで人家が連担しており、郊外移転先の選定等に不測の日数を要している。また、墓地があり移転交渉等に難航していることから、事業が長期化している。起点部分の表町一丁目交差点は国事業、市事業と協調して行っており地権者対応を含めて協議に不測の日数を要している。



人家連担状況



## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

本事業区間の前後における朝夕の通勤及び帰宅時の渋滞は解消されておらず、渋滞解消の必要性は変わっていない。

現在、用地買収進捗率は73%となっていること及び一定区間の用地買収が進んでいることから、平成22年度より工事に着手している。

170人もの共有者がある墓地の買収については現在整理作業が進んでおり平成24年度買収の見込みがついたことから、予算の集中的な投資を行い、早期事業完了を図りたい。